

表 2-2-2 達成と希望でみる生活の状態(続き) (単位:%)

生活標準 項目	区別	年齢階級別							地域別					
		15-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70歳 以上	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
食べるのに困らないくらし	達成	79.5	83.6	83.9	82.4	78.0	73.9	71.0	77.2	82.5	80.6	77.9	82.7	74.7
	希望	50.0	53.6	67.6	67.7	54.4	45.5	52.0	54.1	59.2	56.7	60.9	39.1	64.7
安定した仕事ができるくらし	達成	18.2	40.9	57.8	55.7	46.9	39.5	31.5	48.4	46.8	46.9	45.9	45.7	52.0
	希望	65.3	76.5	79.8	81.8	75.2	54.8	48.1	70.3	72.6	74.1	75.5	57.1	67.6
ある程度お金が貯められるよう なくらし	達成	27.3	20.7	19.8	26.0	22.4	28.4	18.3	24.9	20.7	29.5	21.1	22.2	25.3
	希望	76.6	82.1	89.0	86.5	75.5	70.3	64.7	80.3	82.5	79.4	81.1	75.8	81.1
老後に安心してらせるだけの 貯えのあるくらし	達成	8.0	5.5	5.0	10.6	12.7	21.6	13.0	11.1	10.1	10.5	8.9	18.5	8.0
	希望	66.7	81.4	87.9	86.2	78.6	75.5	76.0	77.8	81.0	84.8	84.8	75.4	81.5
老後にも自分にあった仕事が 続けられるくらし	達成	4.5	6.5	7.2	12.1	13.5	20.7	17.2	14.8	10.9	10.8	10.9	12.3	10.7
	希望	58.8	67.3	74.6	74.5	59.8	53.6	45.6	59.5	66.3	67.8	69.4	61.4	71.0
子どもに十分な高等教育を受け させられるくらし	達成	37.5	13.5	14.8	34.4	35.2	32.1	31.2	26.5	25.9	28.9	22.8	31.3	26.7
	希望	55.9	67.1	72.6	69.8	52.0	40.4	34.5	54.5	64.4	58.8	64.2	59.3	64.7
子どもに習いごとやけいごと などを、十分に受けさせられる くらし	達成	31.8	13.9	21.2	33.1	24.2	24.8	19.4	25.4	22.3	25.2	24.3	28.4	23.0
	希望	37.5	53.2	61.7	53.6	41.6	36.8	31.3	47.7	51.2	46.4	50.2	48.2	50.0
家に乗用車があるくらし	達成	73.9	81.1	86.2	86.3	76.2	65.8	55.9	73.5	82.9	71.7	83.3	77.8	66.7
	希望	48.3	60.0	47.7	46.6	47.3	28.4	28.6	45.5	41.4	52.7	40.4	34.6	39.1
家にクーラーのあるくらし	達成	77.0	77.7	82.2	78.4	68.9	63.0	51.1	67.0	76.7	77.6	74.0	62.5	65.3
	希望	37.0	48.4	39.0	40.7	42.9	29.7	41.0	42.4	36.9	38.7	40.0	40.0	59.1
高級品、美術品などのあるくらし	達成	8.0	5.5	3.4	4.5	8.2	9.5	6.5	5.9	7.0	6.2	3.1	4.9	6.7
	希望	9.6	10.6	11.2	11.9	16.9	13.0	10.3	14.2	10.8	10.7	13.4	16.0	17.2
持家に住めるくらし	達成	36.4	29.1	31.6	55.9	63.9	70.6	63.4	57.1	49.6	36.9	57.0	43.8	36.5
	希望	40.7	59.9	67.6	67.5	52.9	48.3	28.6	54.5	60.4	58.1	62.8	59.6	61.9
家族一人一人に一部屋はあるく らし	達成	37.5	36.7	26.5	36.9	45.3	55.9	43.0	43.9	41.3	30.5	40.8	32.1	34.7
	希望	57.9	46.1	50.5	55.8	53.4	36.4	40.4	53.5	50.4	50.7	45.8	48.2	52.2
敷地が広くて、環境がよい住宅 地に住むことができるくらし	達成	25.0	25.5	25.1	29.4	27.3	42.3	41.9	37.0	29.8	16.6	39.5	28.8	29.3
	希望	47.7	60.3	62.6	59.4	51.2	55.9	51.0	60.4	58.8	57.2	54.6	58.6	54.2
通勤や通学、買物などに便利な 所に住むことができるくらし	達成	48.9	55.3	62.7	60.2	56.0	61.3	53.8	54.5	60.4	59.7	52.7	60.5	64.9
	希望	55.1	65.9	66.0	61.4	49.5	36.3	34.2	47.4	56.0	63.7	59.7	51.4	41.7
連続した休みがとれるくらし	達成	29.5	26.5	34.3	28.8	26.9	28.4	18.3	29.3	29.6	28.0	26.3	29.6	33.3
	希望	53.8	63.5	68.0	60.9	56.3	30.3	34.8	58.7	57.8	54.5	55.2	53.4	53.3
家族旅行ができるくらし	達成	11.4	13.1	20.1	17.6	17.6	19.4	10.8	13.8	17.8	17.5	15.3	18.5	18.7
	希望	51.9	66.7	73.2	66.9	63.8	46.7	42.7	59.4	63.7	63.6	65.3	58.5	59.6
海外旅行ができるくらし	達成	3.4	12.7	6.3	7.3	9.4	11.3	7.5	3.7	10.0	8.6	6.8	8.6	14.7
	希望	27.9	36.7	39.6	41.9	41.8	36.4	27.3	36.0	38.8	40.1	36.8	35.2	39.0
ゴルフなど少しお金のかかるス ポーツのできるくらし	達成	13.6	13.9	14.8	20.4	19.6	13.5	4.3	16.9	16.2	17.2	12.6	16.3	13.3
	希望	16.9	12.8	25.9	25.4	26.8	12.5	10.1	18.0	20.7	20.3	21.8	21.5	18.3
伝統芸能などの習いごとや教養 講座の受けることができるくらし	達成	21.8	13.5	12.2	19.3	19.6	21.6	16.1	18.0	16.6	21.6	12.9	11.1	20.0
	希望	23.2	27.4	36.9	37.7	43.7	32.1	26.8	35.6	33.9	34.4	36.8	30.6	32.7

第3章 重要度、充足度とニーズ得点

本調査においては、調査対象の各項目の達成率をもとに、各項目の重要度と充足度を比較し、その差を「ニーズ得点」として算出した。この得点が高い項目ほど、重要でかつ達成率が低いことを示している。また、達成率が高かったとしても、重要度が低い項目は「ニーズ得点」が低い。つまり、重要度の高い項目で達成率が低いものは、特にニーズが強いと判断される。

第3章 重要度、充足度とニーズ得点

重要度と充足度の比較

項目	重要度	充足度	ニーズ得点
食べるのに困らないくらし	79.5	50.0	29.5
安定した仕事ができるくらし	18.2	65.3	47.1
ある程度お金が貯められるようなくらし	27.3	76.6	49.3
老後に安心してらせるだけの貯えのあるくらし	8.0	66.7	58.7
老後にも自分にあった仕事が続けられるくらし	4.5	58.8	54.3
子どもに十分な高等教育を受けさせられるくらし	37.5	55.9	18.4
子どもに習いごとやけいごとなどを、十分に受けさせられるくらし	31.8	37.5	5.7
家に乗用車があるくらし	73.9	48.3	25.6
家にクーラーのあるくらし	77.0	37.0	40.0
高級品、美術品などのあるくらし	8.0	9.6	1.6
持家に住めるくらし	36.4	40.7	4.3
家族一人一人に一部屋はあるくらし	37.5	57.9	20.4
敷地が広くて、環境がよい住宅地に住むことができるくらし	25.0	47.7	22.7
通勤や通学、買物などに便利な所に住むことができるくらし	48.9	55.1	6.2
連続した休みがとれるくらし	29.5	53.8	24.3
家族旅行ができるくらし	11.4	51.9	40.5
海外旅行ができるくらし	3.4	27.9	24.5
ゴルフなど少しお金のかかるスポーツのできるくらし	13.6	16.9	3.3
伝統芸能などの習いごとや教養講座の受けることができるくらし	21.8	23.2	1.4

第3章 重要度、充足度とニーズ得点

本章においては、県民生活の種々の側面に関する64項目の調査結果をもとに、県民生活の12領域に関する評価を行ったものである。調査のねらいは、県民生活の各分野におけるそれぞれの項目について重要と考える程度、及び満たされていると考える程度によって県民生活の重要度と充足度を把握し、さらに、この重要度と充足度が関連しあっていることに着目してニーズを測定するものである。

なお、今回調査において下表のとおり設問の追加又は統合を行っているので、前回調査結果と単純に比較ができない場合があることに注意する必要がある。

問1及び問2設問の主な変更一覧

問No.	設問内容	変更説明
問2	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	新規追加
問7	幼稚園・小・中・高校の施設が整っていること	前回調査の問6と7を統合
問16	琉舞、三味線、芝居などの文化がさかんになること	新規追加
問20	能力があつて努力すれば、学歴に関わらず誰もがふさわしい地位や収入が得られること	新規追加
問35	廃棄物の減量化・リサイクルが行われること	新規追加
問38	豊かな自然を保全すること	新規追加
問50	目標を満たすのに十分な貯蓄ができること	新規追加
問51	労働時間が短くなり、家族と過ごす時間や休暇が多くとれること	前回調査の問46と47を統合
問58	施設や内容が整っている保育所（学童保育を含む）が近くにあつて入りやすいこと	前回調査の問54と55を統合

(注) 関連する前回調査内容

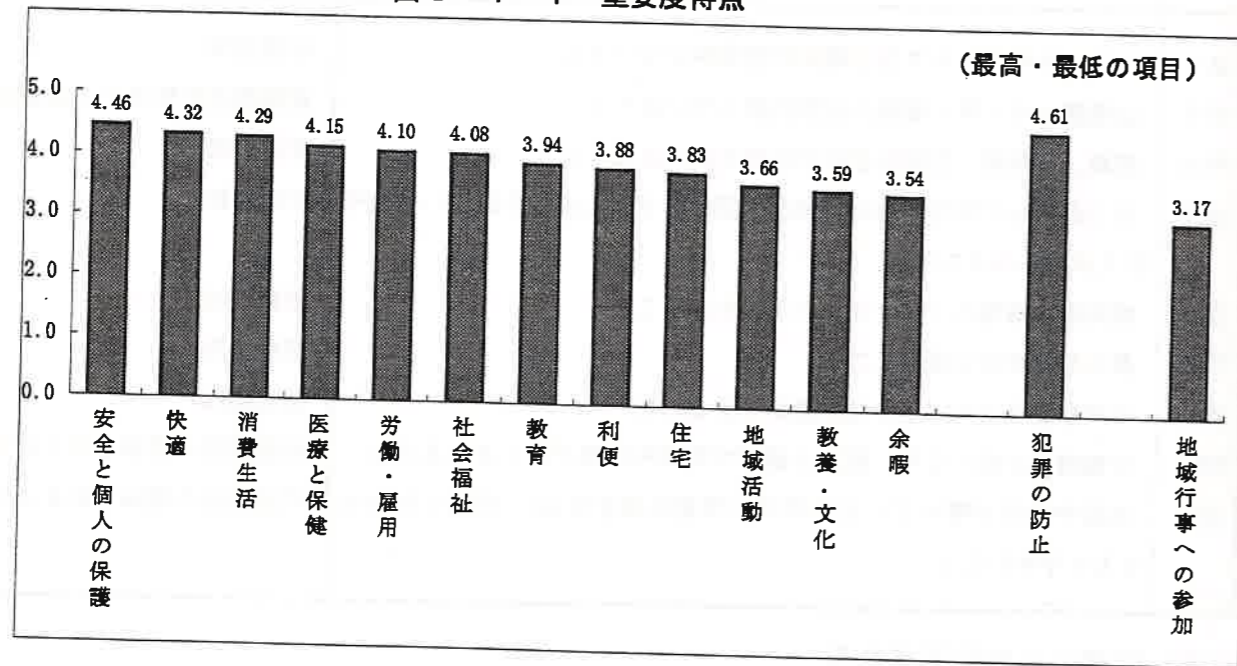
- 問6. 幼稚園の施設や内容が整っていること
- 問7. 小・中・高校の施設が整っていること
- 問46. 労働時間が短くなり長期休暇もとれること
- 問47. 家族との会話やコミュニケーションをとる時間的な余裕が持てること
- 問54. 施設や内容が整っている保育所が近くにあつて入りやすいこと
- 問55. 施設や内容が整っている低学年児童の保育施設（学童保育所など）が近くにあつて入りやすいこと

1 生活の各側面に対する重要度 (問1)

生活の各側面に対する重要度の調査は、生活に関わる個別具体的な64項目について、県民の暮らしの中で、どの程度重要と考えているかを、「非常に重要である」、「かなり重要である」、「どちらともいえない」、「それほど重要でない」、「全く重要でない」、「わからない」の6つの分野に分けて回答を求めた。集計にあたっては5段階評価方式により、「非常に重要である」=5点、「かなり重要である」=4点、「どちらともいえない」=3点、「それほど重要でない」=2点、「全く重要でない」=1点の得点(ウェイト)を与え、各項目ごとの平均点を求め重要度に関する県民の評価の指標(重要度得点)とした。さらに、これらの項目を12の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

領域別にみた重要度の得点は、図3-1-1に示すように「安全と個人の保護」の領域が最も高い得点となっている。得点の最も低い領域は、「余暇」の領域である。具体的な項目の中で最も高い得点は「安全と個人の保護」領域の間42「犯罪の防止」(4.61)で、最も低いのは「余暇」に関する領域の間59「地域活動への参加」(3.17)である。

図3-1-1 重要度得点



具体的に項目別の得点をみると、図3-1-2、表3-1-1に示すように得点の最も高いのは問42「犯罪の防止」(4.61)で、以下、問46「老後に不安のない年金」(4.51)、問40「防災対策の充実」(4.49)、問43「法律適用の公正さ」(4.47)、問33「水使用の安心」(4.47)と続いている。

一方、得点の最も低い項目は問59「地域行事への参加」(3.17)で、以下、問54「多様な宿泊施設の整備」(3.18)、問61「自治会等の充実」(3.34)、問53「趣味の会への参加の機会」(3.34)、問60「集会場や公民館の利用機会」(3.36)と続いている。

図3-1-2 重要度の平均得点

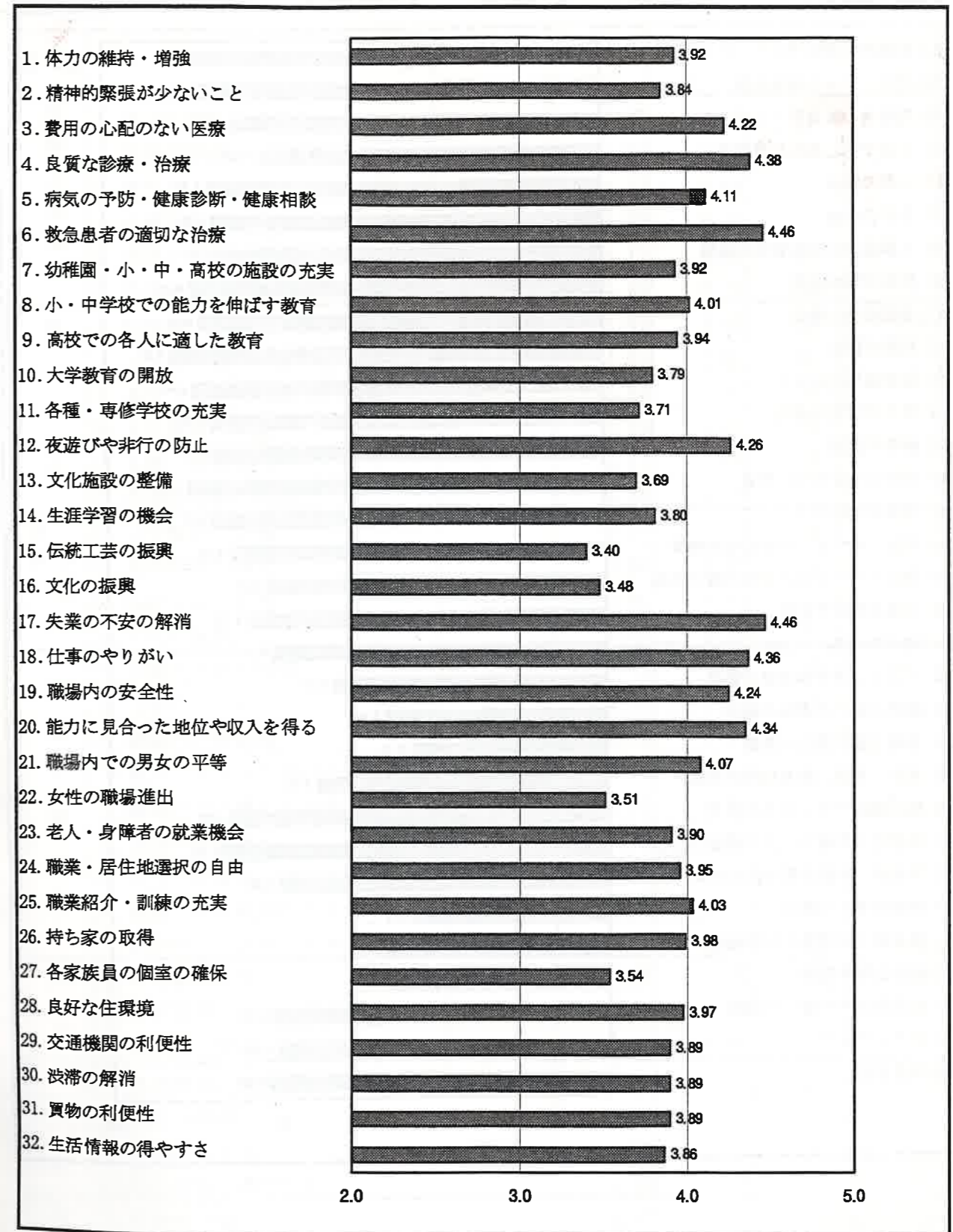


図3-1-2 重要度の平均得点(続き)

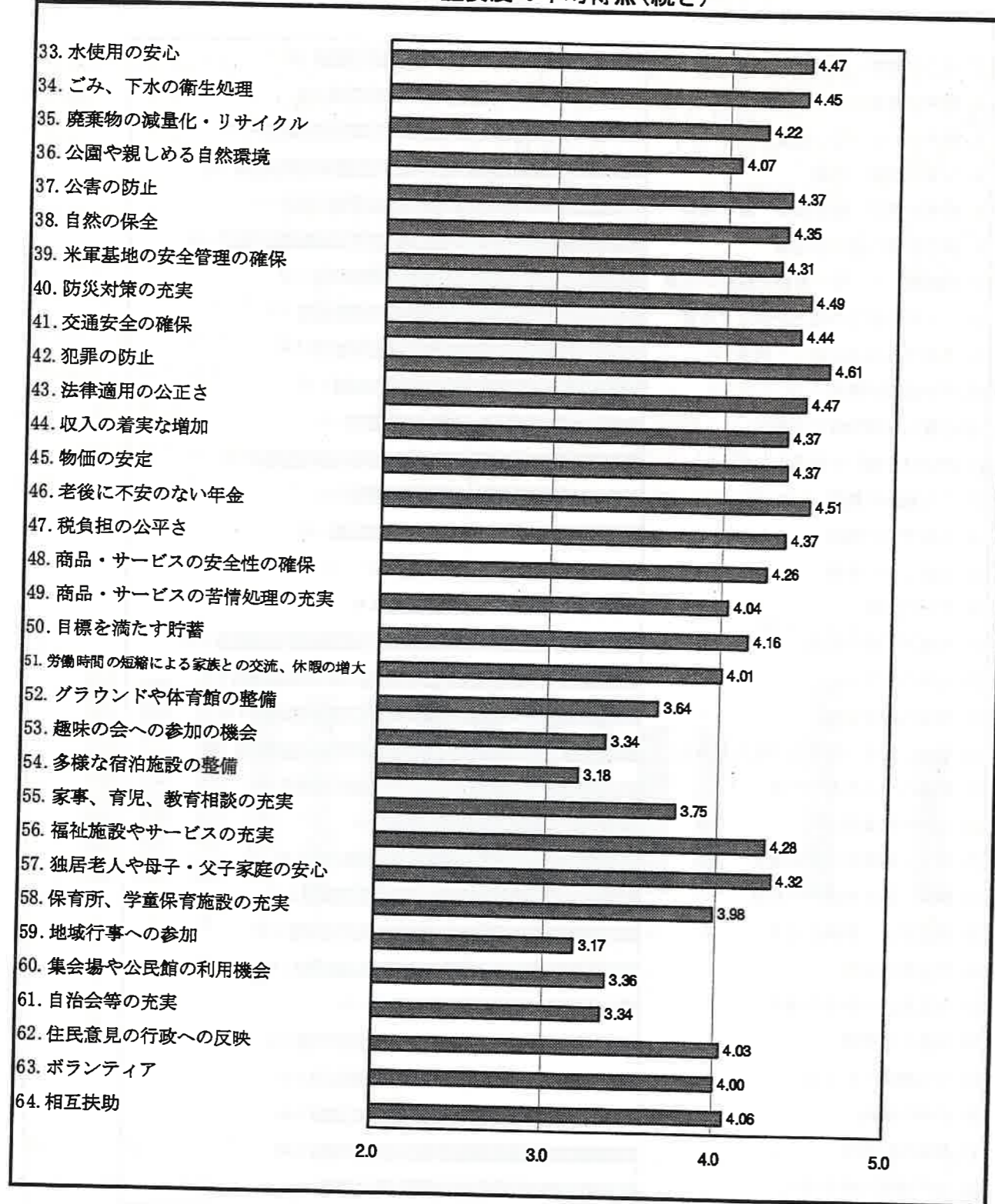


表3-1-1 重要度の平均得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	1. 体力の維持・増強	3.92	0.93	23.8	4.15
	2. 精神的緊張が少ないこと	3.84	0.98	25.5	
	3. 費用の心配のない医療	4.22	0.84	20.0	
	4. 良質な診療・治療	4.38	0.80	18.3	
	5. 病気の予防・健康診断・健康相談	4.11	0.86	20.8	
	6. 救急患者の適切な治療	4.46	0.73	16.5	
教育	7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3.92	1.03	26.2	3.94
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	4.01	1.01	25.1	
	9. 高校での各人に適した教育	3.94	1.01	25.6	
	10. 大学教育の開放	3.79	1.01	26.6	
	11. 各種・専修学校の充実	3.71	1.05	28.3	
	12. 夜遊びや非行の防止	4.26	0.89	21.0	
教養・文化	13. 文化施設の整備	3.69	0.98	26.6	3.59
	14. 生涯学習の機会	3.80	0.92	24.3	
	15. 伝統工芸の振興	3.40	0.94	27.6	
	16. 文化の振興	3.48	0.96	27.6	
労働・雇用	17. 失業の不安の解消	4.46	0.81	18.2	4.10
	18. 仕事のやりがい	4.36	0.79	18.2	
	19. 職場内の安全性	4.24	0.84	19.8	
	20. 能力に見合った地位や収入を得る	4.34	0.80	18.4	
	21. 職場内での男女の平等	4.07	0.92	22.6	
	22. 女性の職場進出	3.51	0.88	25.0	
	23. 老人・身障者の就業機会	3.90	0.83	21.2	
	24. 職業・居住地選択の自由	3.95	0.88	22.3	
	25. 職業紹介・訓練の充実	4.03	0.85	21.2	
	住宅	26. 持ち家の取得	3.98	1.03	
27. 各家族員の個室の確保		3.54	1.09	30.7	
28. 良好な住環境		3.97	0.90	22.7	
利便	29. 交通機関の利便性	3.89	0.95	24.3	3.88
	30. 渋滞の解消	3.89	0.95	24.5	
	31. 買物の利便性	3.89	0.95	24.4	
	32. 生活情報の得やすさ	3.86	0.89	23.1	
快適	33. 水使用の安心	4.47	0.76	17.1	4.32
	34. ごみ、下水の衛生処理	4.45	0.74	16.6	
	35. 廃棄物の減量化・リサイクル	4.22	0.79	18.8	
	36. 公園や親しめる自然環境	4.07	0.89	21.8	
	37. 公害の防止	4.37	0.79	18.0	
	38. 自然の保全	4.35	0.76	17.4	

表3-1-1 重要度の平均得点(続き)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
安全と個人の保護	39. 米軍基地の安全管理の確保	4.31	0.88	20.5	4.46
	40. 防災対策の充実	4.49	0.73	16.3	
	41. 交通安全の確保	4.44	0.71	16.0	
	42. 犯罪の防止	4.61	0.67	14.6	
	43. 法律適用の公正さ	4.47	0.75	16.8	
消費生活	44. 収入の着実な増加	4.37	0.80	18.3	4.29
	45. 物価の安定	4.37	0.72	16.4	
	46. 老後に不安のない年金	4.51	0.76	16.8	
	47. 税負担の公平さ	4.37	0.80	18.3	
	48. 商品・サービスの安全性の確保	4.26	0.76	17.8	
	49. 商品・サービスの苦情処理の充実	4.04	0.84	20.8	
余暇	50. 目標を満たす貯蓄	4.16	0.82	19.8	3.54
	51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大	4.01	0.92	22.9	
	52. グラウンドや体育館の整備	3.64	0.98	27.1	
	53. 趣味の会への参加の機会	3.34	1.02	30.6	
社会福祉	54. 多様な宿泊施設の整備	3.18	1.03	32.3	4.08
	55. 家事、育児、教育相談の充実	3.75	0.97	25.9	
	56. 福祉施設やサービスの充実	4.28	0.83	19.5	
	57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	4.32	0.79	18.2	
地域活動	58. 保育所、学童保育施設の充実	3.98	0.99	24.8	3.66
	59. 地域行事への参加	3.17	1.05	33.0	
	60. 集会場や公民館の利用機会	3.36	1.04	31.0	
	61. 自治会等の充実	3.34	1.02	30.5	
	62. 住民意見の行政への反映	4.03	0.85	21.1	
	63. ボランティア	4.00	0.79	19.8	
64. 相互扶助		4.06	0.79	19.5	4.03
県計		4.03	0.88	22.3	

(1) 重要度得点の高い項目と低い項目

重要度の高い項目と低い項目をそれぞれ15項目抜き出し、過去の調査結果と比較したのが表3-1-2と表3-1-3である。

まず、表3-1-2で重要度の高い項目をみると、1位は問42「犯罪の防止」、2位は問46「老後に不安のない年金」で、以下、問40「防災対策の充実」、問43「法律適用の公正さ」、問33「水使用の安心」と続いている。1位と2位は前回調査と同じで、引き続き高い重要度となった。

前回調査と比較して重要とする評価が上がった項目は、問43「法律適用の公平さ」(13位から4位へ)、問17「失業の不安の解消」(11位から6位へ)、問40「防災対策の充実」(6位から3位へ)などで、逆に評価が低下した項目は、問45「物価の安定」(5位から11位へ)、問6「救急患者の適切な治療」(3位から7位へ)、問47「税負担の公平さ」(10位から14位へ)などとなっている。この他の項目については、前回調査と大きな変動はみられない。

なお、前回15位の問12「夜遊びや非行の防止」は今回22位に大きく低下し、一方、前回16位の問18「仕事のやりがい」は今回15位となった。

表3-1-2 重要度の高い項目

領域	番号	項目	平成2年		平成7年		平成11年	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
安全と個人の保護	42	犯罪の防止	2	4.60	1	4.47	1	4.61
消費生活	46	老後に不安のない年金	7	4.51	2	4.44	2	4.51
安全と個人の保護	40	防災対策の充実	10	4.45	6	4.36	3	4.49
安全と個人の保護	43	法律適用の公正さ	5	4.54	13	4.24	4	4.47
快適	33	水使用の安心	3	4.56	4	4.39	5	4.47
労働・雇用	17	失業の不安の解消	13	4.41	11	4.26	6	4.46
医療と保健	6	救急患者の適切な治療	1	4.60	3	4.40	7	4.46
快適	34	ごみ、下水の衛生処理	9	4.45	8	4.34	8	4.45
安全と個人の保護	41	交通安全の確保	6	4.52	9	4.31	9	4.44
医療と保健	4	良質な診療・治療	4	4.55	7	4.34	10	4.38
消費生活	45	物価の安定	8	4.49	5	4.37	11	4.37
快適	37	公害の防止	16	4.39	14	4.20	12	4.37
消費生活	44	収入の着実な増加	19	4.35	12	4.26	13	4.37
消費生活	47	税負担の公平さ	17	4.38	10	4.30	14	4.37
労働・雇用	18	仕事のやりがい	24	4.32	16	4.17	15	4.36

平成7年の上位15項目の中で、15位グループから後退した項目

領域	番号	項目	前回 順位	今回 順位
教育	12	夜遊びや非行の防止	15	22

一方、表3-1-3で重要度の低い項目を最下位から順を追ってみると、問59「地域行事への参加」、問54「多様な宿泊施設の整備」、問61「自治会等の充実」、問53「趣味の会への参加の機会」、問60「集会場や公民館の利用機会」などとなっている。最下位および下位から2位の項目は、前回調査と同じである。

前回調査との比較では、全体的に大きな変動はみられないが、重要とする評価が高まった項目は、問22「女性の職場進出」（3位から8位へ）、問55「家事、育児、教育相談の充実」（10位から13位へ）、問52「グラウンドや体育館の整備」（8位から10位へ）などで、逆に重要とする評価が低下した項目は、問27「各家族員の個室の確保」（13位から9位へ）、問13「文化施設の整備」（14位から11位へ）、問14「生涯学習の機会」（18位から15位へ）などとなっている。

なお、前回9位の問55「学童保育所の充実」は今回22位へ、前回11位の問6「幼稚園施設・内容の充実」は今回18位へとそれぞれ重要とする評価が高まった。

表3-1-3 重要度の低い項目

領域	番号	項目	平成2年		平成7年		平成11年	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
地域活動	59	地域行事への参加	2	3.28	1	2.96	1	3.17
余暇	54	多様な宿泊施設の整備	1	3.11	2	3.07	2	3.18
地域活動	61	自治会等の充実	5	3.52	5	3.22	3	3.34
余暇	53	趣味の会への参加の機会	3	3.41	4	3.21	4	3.34
地域活動	60	集会場や公民館の利用機会	4	3.48	6	3.22	5	3.36
教養・文化	15	伝統工芸の振興	8	3.58	7	3.23	6	3.40
教養・文化	16	文化の振興(新規)	-	-	-	-	7	3.48
労働・雇用	22	女性の職場進出	-	-	3	3.20	8	3.51
住宅	27	各家族員の個室の確保	12	3.74	13	3.56	9	3.54
余暇	52	グラウンドや体育館の整備	7	3.56	8	3.52	10	3.64
教養・文化	13	文化施設の整備	13	3.76	14	3.60	11	3.69
教育	11	各種・専修学校の充実	9	3.59	12	3.54	12	3.71
社会福祉	55	家事、育児、教育相談の充実	24	3.99	10	3.53	13	3.75
教育	10	大学教育の開放	11	3.72	15	3.62	14	3.79
教養・文化	14	生涯学習の機会	-	-	18	3.65	15	3.80

平成7年の下位15項目の中で重要度を16位以上に上げた項目

領域	番号	項目	前回順位	今回順位
社会福祉	55	学童保育所の充実	9	22
教育	6	幼稚園施設・内容の充実	11	18

(2) 領域別の比較

重要度の認識は、領域によってかなりの差がみられる。この領域でその認識の度合いをみるために領域ごとの重要度の平均得点と上下15位に入った項目の数について、前回と今回の結果を比較表示したのが表3-1-4である。

各領域の平均得点をみてみると、「安全と個人の保護」、「快適」、「消費生活」、「医療と保険」、「労働と雇用」などが上位に位置し、「利便」、「住宅」、「地域活動」、「教養・文化」、「余暇」は下位に位置している。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「安全と個人の保護」領域では、5項目中4項目が上位に入っており、次いで、「快適」が6項目中3項目、「消費生活」が7項目中4項目、「医療と保健」が6項目中2項目などとなっている。一方、下位15位に入った項目数では、最も得点の低い「余暇」の領域が4項目中3項目で、以下、「教養・文化」が4項目中4項目、「地域活動」が6項目中3項目などとなっている。平均点が最も高い「安全と個人の保護」領域と、最も低い「余暇」領域では、得点に0.92ポイントの開きがあり、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目の間には相関がみられる。

このように、重要度の高い領域は、日常生活の基礎的な分野が多く、一方、重要度の低い項目は、個人の価値観や関心のあり方に違いがあると考えられる分野が多くなっている。

表3-1-4 領域別にみた重要度

順位	領域	前回順位	領域ごとの平均得点		上位15位に入った項目数		下位15位に入った項目数	
			平成7年	平成11年	平成7年	平成11年	平成7年	平成11年
1	安全と個人の保護	1	4.29	4.46	4/5	4/5		
2	快適	2	4.21	4.32	3/4	3/6		
3	消費生活	3	4.19	4.29	4/6	4/7		
4	医療と保健	4	4.17	4.15	2/5	2/6		
5	労働・雇用	5	3.86	4.10	1/8	2/9	1/8	1/9
6	社会福祉	7	3.79	4.08			2/5	1/4
7	教育	9	3.74	3.94	1/7		3/7	2/6
8	利便	8	3.77	3.88				
9	住宅	6	3.79	3.83			1/3	1/3
10	地域活動	10	3.50	3.66			3/6	3/6
11	教養・文化	11	3.49	3.59			2/3	4/4
12	余暇	12	3.49	3.54			3/5	3/4

(注) 項目数の表記は、(該当する項目数)/(領域の項目数)

(3) 地域別の比較

次に、表3-1-5で領域別の重要度を地域別にみると、南部地域が最も高くなり、以下、八重山、北部、中部、那覇市、宮古の順と続いている。南部地域では、12の領域中、半分が1位となったことにより、全体では前回調査の4位から今回1位となり、前回1位の八重山地域を超える評価となっている。今回2位の八重山地域は、前回と異なり「医療と保健」、「教育」、「余暇」、「社会福祉」で1位となったものの、他の項目では2～5位と評価が落ちた。また、那覇市は、前回の2位から5位に、中部は3位から4位へ、北部は5位から3位へと変化したが、宮古地域は前回同様6位となっている。

表3-1-5 地域別・領域別の重要度得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	4	4.13	2	4.17	5	4.12	3	4.17	6	4.04	1	4.25	4.15
教育	3	3.97	4	3.94	6	3.82	2	4.02	5	3.93	1	4.09	3.94
教養・文化	5	3.56	3	3.61	4	3.61	1	3.63	6	3.35	2	3.62	3.59
労働・雇用	2	4.11	4	4.10	5	4.07	1	4.16	6	3.96	3	4.10	4.10
住宅	1	3.97	3	3.80	6	3.77	2	3.91	5	3.79	4	3.80	3.83
利便	4	3.86	3	3.87	2	3.97	1	3.98	6	3.55	5	3.67	3.88
快適	3	4.32	4	4.32	5	4.32	1	4.36	6	4.15	2	4.33	4.32
安全と個人の保護	4	4.45	2	4.46	5	4.44	1	4.52	6	4.38	3	4.46	4.46
消費生活	2	4.31	3	4.29	4	4.28	1	4.33	6	4.22	5	4.28	4.29
余暇	3	3.56	5	3.54	2	3.56	4	3.54	6	3.28	1	3.66	3.54
社会福祉	3	4.11	4	4.09	5	4.00	2	4.13	6	4.00	1	4.16	4.08
地域活動	1	3.81	3	3.67	6	3.54	4	3.70	5	3.55	2	3.76	3.66
計	3	4.01	4	3.99	5	3.96	1	4.04	6	3.85	2	4.02	3.99

(注) 順位は、各領域の地域間の順位である。(高い順)

次に、各地域について、具体的項目の順位を示したのが表3-1-6である。どの地域においても問42「犯罪の防止」が重要度得点が最も高くなっていて、2位については、北部、南部、宮古は問46「老後に不安のない年金」、中部は問40「防災対策の充実」、那覇市は問41「交通安全の確保」、八重山は問34「ごみ、下水の衛生処理」と違いがみられる。

各地域について県平均と比較して特徴をみると、北部は、項目の順位が県平均と類似した序列となっている中で、県平均18位の間57「独居老人や母子・父子家庭の安心」が10位、同10位の間4「良質な診療・治療」が17位となっていることなどに違いがみられる。

中部については大きな差はみられないが、県平均7位の間6「救急患者の適切な治療」が4位、同4位の間43「法律適用の公正さ」が7位、同19位の間39「米軍基地の安全管理の確保」が15位となっている。

那覇市では、県平均9位の間41「交通安全の確保」が2位に、県平均14位の間47「税負担の公平さ」が9位に、県平均13位の間44「収入の着実な増加」が18位にランクされ、南部においては、県平均15位の間18「仕事のやりがい」が10位に、県平均22位の間12「夜遊びや非行の防止」が15位に、県平均10位の間4「良質な診療・治療」が16位になっている。

宮古、八重山では、県平均と大きく異なっていて、宮古では、県平均22位の間12「夜遊びや非行の防止」が9位、同23位の間19「職場内の安全性」が10位、同10位の間4「良質な診療・治療」が21位となり、八重山では県平均22位の間12「夜遊びや非行の防止」が11位に、同6位の間17「失業の不安の解消」が20位に、同19位の間39「米軍基地の安全管理の確保」が29位になっている。

このように、重要度に対する評価は地域により差がみられ、特に、宮古、八重山地域の違いが大きい、これらは生活環境の違いによるところが大きいものと考えられる。

表3-1-6 地域別・項目別重要度得点順位表

項目	県計 順位	地域別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
42. 犯罪の防止	1	1	1	1	1	1	1
46. 老後に不安のない年金	2	2	3	3	2	2	9
40. 防災対策の充実	3	4	2	6	3	7	3
43. 法律適用の公正さ	4	3	7	4	6	3	10
33. 水使用の安心	5	5	5	5	5	13	7
17. 失業の不安の解消	6	6	6	8	4	5	20
6. 救急患者の適切な治療	7	8	4	10	9	6	4
34. ごみ、下水の衛生処理	8	7	8	7	7	11	2
41. 交通安全の確保	9	12	10	2	8	4	5
4. 良質な診療・治療	10	17	9	14	16	21	6
45. 物価の安定	11	11	12	15	12	15	15
37. 公害の防止	12	13	11	11	17	23	21
44. 収入の着実な増加	13	9	13	18	13	8	8
47. 税負担の公平さ	14	16	17	9	14	12	16
18. 仕事のやりがい	15	19	14	12	10	16	19
38. 自然の保全 (新規)	16	14	18	13	11	19	18
20. 能力に見合った地位や収入を得る (新規)	17	18	16	16	19	14	13
57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	18	10	19	17	18	17	14
39. 米軍基地の安全管理の確保	19	15	15	20	20	25	29
56. 福祉施設やサービスの充実	20	20	20	25	21	20	12
48. 商品・サービスの安全性の確保	21	25	21	19	23	18	23
12. 夜遊びや非行の防止	22	21	25	23	15	9	11
19. 職場内の安全性	23	22	23	26	22	10	27
3. 費用の心配のない医療	24	26	22	24	24	34	25
35. 廃棄物の減量化・リサイクル (新規)	25	23	24	21	25	24	22
50. 目標を満す貯蓄(新規)	26	24	27	22	27	29	24
5. 病気の予防・健康診断・健康相談	27	30	26	33	32	22	17
21. 職場内での男女の平等	28	32	30	29	26	41	32
36. 公園や親しめる自然環境	29	34	28	28	34	39	28
64. 相互扶助	30	27	29	37	29	31	38
49. 商品・サービスの苦情処理の充実	31	37	32	27	41	32	44
62. 住民意見の行政への反映	32	28	34	39	37	27	33

表3-1-6 地域別・項目別重要度得点順位表(続き)

項目	累計 順位	地域別						
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山	
25. 職業紹介・訓練の充実	33	36	31	36	31	43	34	
8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	34	33	33	48	30	28	35	
51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大(統合)	35	40	36	30	43	42	26	
63. ボランティア	36	31	35	38	38	36	41	
26. 持ち家の取得	37	29	42	47	28	26	47	
58. 保育所、学童保育施設の充実(統合)	38	38	37	45	36	33	36	
28. 良好な住環境	39	39	39	35	35	44	42	
24. 職業・居住地選択の自由	40	35	41	40	45	37	40	
9. 高校での各人に適した教育	41	41	38	49	42	35	31	
7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実(新規)	42	46	40	51	33	40	30	
1. 体力の維持・増強	43	42	44	42	47	30	39	
23. 老人・身障者の就業機会	44	43	45	41	46	48	37	
31. 買物の利便性	45	47	48	34	40	45	54	
29. 交通機関の利便性	46	48	46	31	39	56	56	
30. 渋滞の解消	47	49	43	32	44	54	58	
32. 生活情報の得やすさ	48	44	49	43	48	46	48	
2. 精神的緊張が少ないこと(新規)	49	54	47	44	49	49	46	
14. 生涯学習の機会	50	52	50	46	50	51	51	
10. 大学教育の開放	51	50	51	50	51	47	43	
55. 家事、育児、教育相談の充実	52	51	52	52	52	50	49	
11. 各種・専修学校の充実	53	45	54	54	54	38	45	
13. 文化施設の整備	54	55	53	53	53	53	52	
52. グラウンドや体育館の整備	55	56	55	55	55	55	50	
27. 各家族員の個室の確保	56	53	56	56	57	52	59	
22. 女性の職場進出	57	57	58	57	56	57	53	
16. 文化の振興(新規)	58	60	57	58	58	58	55	
15. 伝統工芸の振興	59	62	59	59	59	61	61	
60. 集会場や公民館の利用機会	60	59	60	62	60	59	62	
53. 趣味の会への参加の機会	61	61	62	60	61	62	63	
61. 自治会等の充実	62	58	61	63	62	60	57	
54. 多様な宿泊施設の整備	63	64	63	61	64	64	64	
59. 地域行事への参加	64	63	64	64	63	63	60	

(4) 時系列比較

次に、重要度の水準がこれまで行われた昭和59年、平成2年、平成7年調査と比べてどのように変化したかを時系列に示したのが表3-1-7である。
 今回調査においては、新たに6項目が追加され、また、3項目については前回調査の2つの項目を1つに統合したために厳密な比較ができないことに注意する必要がある。
 全体を通覧すると、前回調査に比較してほとんどの項目で重要度得点が上がっており、唯一問27「各家族の個室の確保」のみ減少が見られる。全体の重要度得点の変動幅は、-0.02~+0.69であり、これは、平成2年→7年の-0.46~+0.27と比較しても、重要度の評価が全体的に増加していることがわかる。
 項目別に見てみると、前回調査に比べて上昇幅の大きい項目は、問57「独居老人や母子

家庭の安心」(+0.69)、問58「保育所、学童保育施設の充実」(+0.40)、問22「女性の職場進出」(+0.31)などである。また、項目の統合のあった問7「幼稚園・小・中・高校の施設の充実」(+0.31)、問58「保育所、学童保育施設の充実」(+0.40)が、参考ながら高い増加を示している。

表3-1-7 重要度の時系列比較

領域	項目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年	2年-59年	7年-2年	11年-7年
医療と保健	1. 体力の維持・増強	-	-	3.90	3.92	-	-	0.02
	2. 精神的緊張が少ないこと(新規)	-	-	-	3.84	-	-	-
	3. 費用の心配のない医療	4.47	4.40	4.14	4.22	-0.07	-0.26	0.08
	4. 良質な診療・治療	4.61	4.55	4.34	4.38	-0.06	-0.21	0.04
	5. 病気の予防・健康診断・健康相談 ※	4.31	4.23	4.06	4.11	-0.08	-0.17	0.05
	6. 救急患者の適切な治療	4.62	4.60	4.40	4.46	-0.02	-0.20	0.06
教育	7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実(統合)	3.91	3.85	3.61	3.92	-0.06	-0.24	0.31
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	-	-	3.85	4.01	-	-	0.16
	9. 高校での各人に適した教育	-	-	3.76	3.94	-	-	0.18
	10. 大学教育の開放	-	3.72	3.62	3.79	-	-0.10	0.17
	11. 各種・専修学校の充実	3.18	3.59	3.54	3.71	0.41	-0.05	0.17
	12. 夜遊びや非行の防止	4.49	4.44	4.18	4.26	-0.05	-0.26	0.08
教養・文化	13. 文化施設の整備	3.77	3.76	3.60	3.69	-0.01	-0.16	0.09
	14. 生涯学習の機会	-	3.86	3.65	3.80	-	-0.21	0.15
	15. 伝統工芸の振興	3.59	3.58	3.23	3.40	-0.01	-0.35	0.17
	16. 文化の振興(新規)	-	-	-	3.48	-	-	-
労働・雇用	17. 失業の不安の解消	4.50	4.41	4.26	4.46	-0.09	-0.15	0.20
	18. 仕事のやりがい	4.41	4.32	4.17	4.36	-0.09	-0.15	0.19
	19. 職場内の安全性	4.29	4.24	4.10	4.24	-0.05	-0.14	0.14
	20. 能力に見合った地位や収入を得る(新規)	-	-	-	4.34	-	-	-
	21. 職場内での男女の平等※	3.86	3.93	3.86	4.07	0.07	-0.07	0.21
	22. 女性の職場進出	-	-	3.20	3.51	-	-	0.31
住宅	23. 老人・身障者の就業機会	3.92	3.94	3.72	3.90	0.02	-0.22	0.18
	24. 職業・居住地選択の自由	3.95	3.96	3.77	3.95	0.01	-0.19	0.18
	25. 職業紹介・訓練の充実	-	3.94	3.78	4.03	-	-0.16	0.25
	26. 持ち家の取得	4.22	4.28	3.94	3.98	0.06	-0.34	0.04
利便	27. 各家族員の個室の確保	3.73	3.74	3.56	3.54	0.01	-0.18	-0.02
	28. 良好な住環境	4.15	4.16	3.88	3.97	0.01	-0.28	0.09
	29. 交通機関の利便性	4.06	4.07	3.81	3.89	0.01	-0.26	0.08
	30. 渋滞の解消	-	-	3.80	3.89	-	-	0.09
快適	31. 買物の利便性	3.94	3.88	3.75	3.89	-0.06	-0.13	0.14
	32. 生活情報の得やすさ	-	3.86	3.72	3.86	-	-0.14	0.14
	33. 水使用の安心	4.50	4.56	4.39	4.47	0.06	-0.17	0.08
	33. ごみ、下水の衛生処理	4.50	4.45	4.34	4.45	-0.05	-0.11	0.11
適	35. 廃棄物の減量化・リサイクル化(新規)	-	-	-	4.22	-	-	-
	36. 公園や親しめる自然環境	4.04	4.04	3.90	4.07	0.00	-0.14	0.17
	37. 公害の防止	4.34	4.39	4.20	4.37	0.05	-0.19	0.17
	38. 自然の保全(新規)	-	-	-	4.35	-	-	-

表3-1-7 重要度の時系列比較(続き)

領域	項目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年	2年-59年	7年-2年	11年-7年
安全と個人の保護	39. 米軍基地の安全管理の確保	4.33	4.35	4.07	4.31	0.02	-0.28	0.24
	40. 防災対策の充実	4.45	4.45	4.36	4.49	0.00	-0.09	0.13
	41. 交通安全の確保	4.53	4.52	4.31	4.44	-0.01	-0.21	0.13
	42. 犯罪の防止	4.64	4.60	4.47	4.61	-0.04	-0.13	0.14
	43. 法律適用の公正さ	4.58	4.54	4.24	4.47	-0.04	-0.30	0.23
消費生活	44. 収入の着実な増加	4.41	4.35	4.26	4.37	-0.06	-0.09	0.11
	45. 物価の安定	4.55	4.49	4.37	4.37	-0.06	-0.12	0.00
	46. 老後に不安のない年金	4.47	4.51	4.44	4.51	0.04	-0.07	0.07
	47. 税負担の公平さ	-	4.38	4.30	4.37	-	-0.08	0.07
	48. 商品・サービスの安全性の確保	-	-	4.01	4.26	-	-	0.25
余暇	49. 商品・サービスの苦情処理の充実	3.83	3.92	3.76	4.04	0.09	-0.16	0.28
	50. 十分な貯蓄(新規)	-	-	-	4.16	-	-	-
	51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大(統合)	3.40	3.55	3.82	4.01	0.15	0.27	0.19
	52. グラウンドや体育館の整備	3.61	3.56	3.52	3.64	-0.05	-0.04	0.12
	53. 趣味の会への参加の機会	3.34	3.41	3.21	3.34	0.07	-0.20	0.13
社会福祉	54. 多様な宿泊施設の整備	-	3.11	3.07	3.18	-	-0.04	0.11
	55. 家事、育児、教育相談の充実	3.97	3.99	3.53	3.75	0.02	-0.46	0.22
	56. 福祉施設やサービスの充実	4.34	4.41	4.13	4.28	0.07	-0.28	0.15
	57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	3.79	3.69	3.63	4.32	-0.10	-0.06	0.69
	58. 保育所、学童保育施設の充実(統合)	3.79	3.69	3.58	3.98	-0.10	-0.11	0.40
地域活動	59. 地域行事への参加	3.29	3.28	2.96	3.17	-0.01	-0.32	0.21
	60. 集会場や公民館の利用機会	3.51	3.48	3.22	3.36	-0.03	-0.26	0.14
	61. 自治会等の充実	3.51	3.52	3.22	3.34	0.01	-0.30	0.12
	62. 住民意見の行政への反映	4.18	4.09	3.82	4.03	-0.09	-0.27	0.21
	63. ボランティア	-	4.06	3.85	4.00	-	-0.21	0.15
	64. 相互扶助	4.07	4.05	3.92	4.06	-0.02	-0.13	0.14

(注) 1. ※ 印(Na5、Na21) は表現の変更があった項目である。

2. (統合)とは、二つの項目を一つの項目にまとめたものであるが、過去の数値の表記は以下のとおりとした。

項目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年
7. 幼稚園・小・高校の施設の充実 (①と②を統合)	3.91 (平均)	3.85 (平均)	3.61 (平均)	3.92
①幼稚園施設・内容の充実	3.87	3.77	3.53	-
②小・中・高校の施設の整備	3.95	3.92	3.69	-
51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大(①と②を統合)	3.40	3.55	3.82 (平均)	4.01
①労働時間の短縮	3.40	3.55	3.63	-
②家族とのコミュニケーションの確保	-	-	4.00	-
58. 保育所、学童保育施設の充実 (①と②を統合)	3.79	3.69	3.58 (平均)	3.98
①保育所の充実	3.79	3.69	3.63	-
②学童保育所の充実	-	-	3.53	-

また、表3-1-8に示すようにこれら項目ごとの重要度の変化を領域別にみると、「安全と個人の保護」は、昭和59年調査から1位を維持しており、時勢に左右されない重要な生活条件になっている。また、「快適」と「労働・雇用」は順位が上昇傾向にあり、一方、「医療と保健」は低下傾向にある。

表3-1-8 領域別重要度得点の比較

領域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年		平成11年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
安全と個人の保護	2	4.59	1	4.54	1	4.52	1	4.29	1	4.46
快適	5	4.39	4	4.25	4	4.26	2	4.21	2	4.32
消費生活	4	4.40	3	4.29	3	4.43	4	4.19	3	4.29
医療と保健	1	4.60	2	4.50	2	4.45	3	4.17	4	4.15
労働・雇用	8	4.10	6	3.98	6	4.02	5	3.86	5	4.10
社会福祉	3	4.45	5	4.22	5	4.25	7	3.79	6	4.08
教育	6	4.16	7	3.92	10	3.78	9	3.74	7	3.94
利便	9	4.08	9	3.85	8	3.94	8	3.77	8	3.88
住宅	7	4.12	8	3.91	7	3.97	6	3.79	9	3.83
地域活動	10	3.94	10	3.71	11	3.75	10	3.50	10	3.66
教養・文化	11	3.79	11	3.53	9	3.79	11	3.49	11	3.59
余暇	12	3.58	12	3.44	12	3.43	12	3.49	12	3.54
県計		4.18		4.01		4.05		3.86		3.99

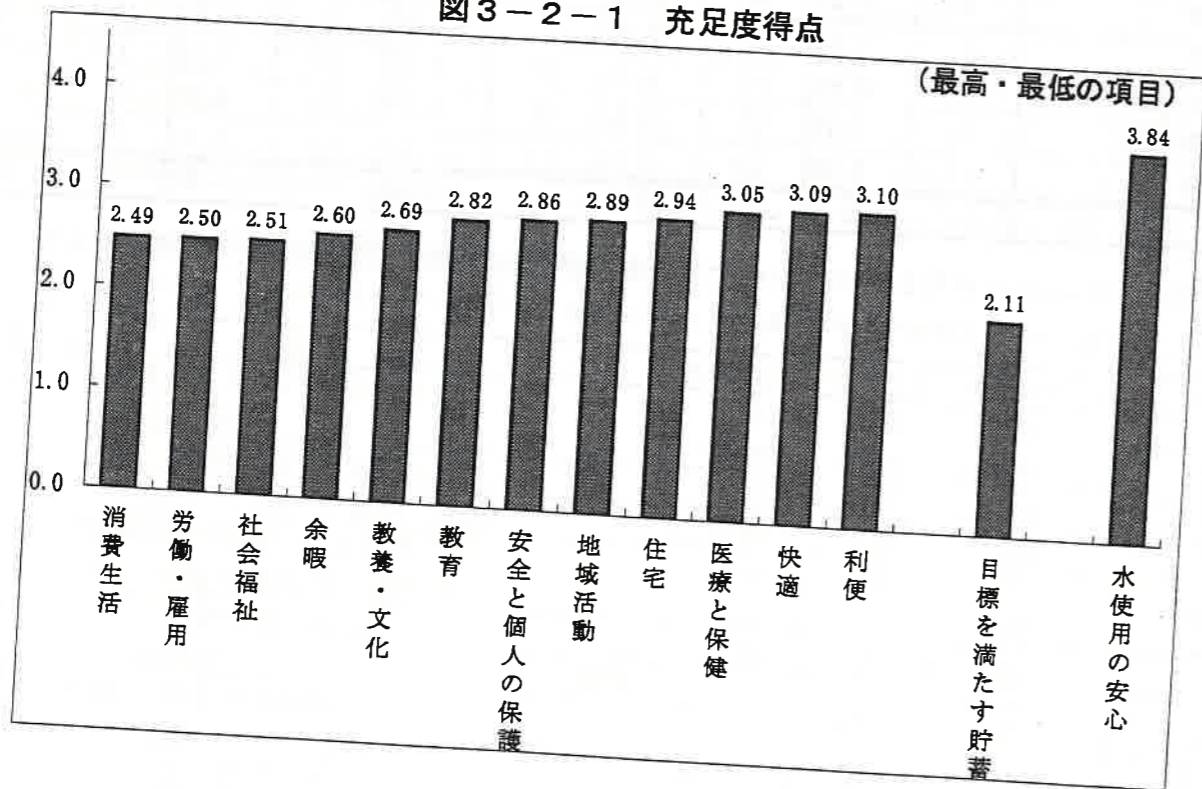
(注) 平成2年～昭和54年分については安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。

2 生活の各側面に対する充足度 (問2)

県民生活に関わる個別具体的な64項目について、重要度と同様に、県民の暮らしの中でどの程度充足されているかを、「非常に満たされている」、「かなり満たされている」、「どちらともいえない」、「あまり満たされていない」、「ほとんど満たされていない」、「わからない」の6つの分野に分けて回答を求めた。集計についても重要度と同様、各分野に5～1点の得点(ウェイト)を与え、各項目ごとに平均得点を求め充足度に関する県民の指標(充足度得点)とした。さらに、これらの項目を12の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

領域別にみた充足度は、図3-2-1に示すように、「消費生活」領域が最も低い充足度を示し、反対に最も高い領域は「便利」であった。具体的な項目の中で最も低い得点は「消費生活」領域の問50「目標を満たす貯蓄」(2.11)で、最も高いのは「快適」領域の問33「水使用の安心」(3.84)である。

図3-2-1 充足度得点



具体的に項目別の得点をみると、図3-2-2、表3-2-1に示すように最も得点の低い項目は問50「目標を満たす貯蓄」(2.11)で、以下、問23「老人・身障者の就業機会」(2.16)、問24「職業・居住地選択の自由」(2.23)、問17「失業の不安の解消」(2.27)、問25「職業紹介・訓練の充実」(2.29)と続いている。

一方、最も高い項目は問33「水使用の安心」(3.84)で、以下、問31「買い物の利便性」(3.46)、問7「幼稚園・小・中・高校施設の充実」(3.43)、問34「ごみ、下水の衛生処理」(3.35)、問6「救急患者の適切な治療」(3.30)と続いている。

図3-2-2 充足度の平均得点

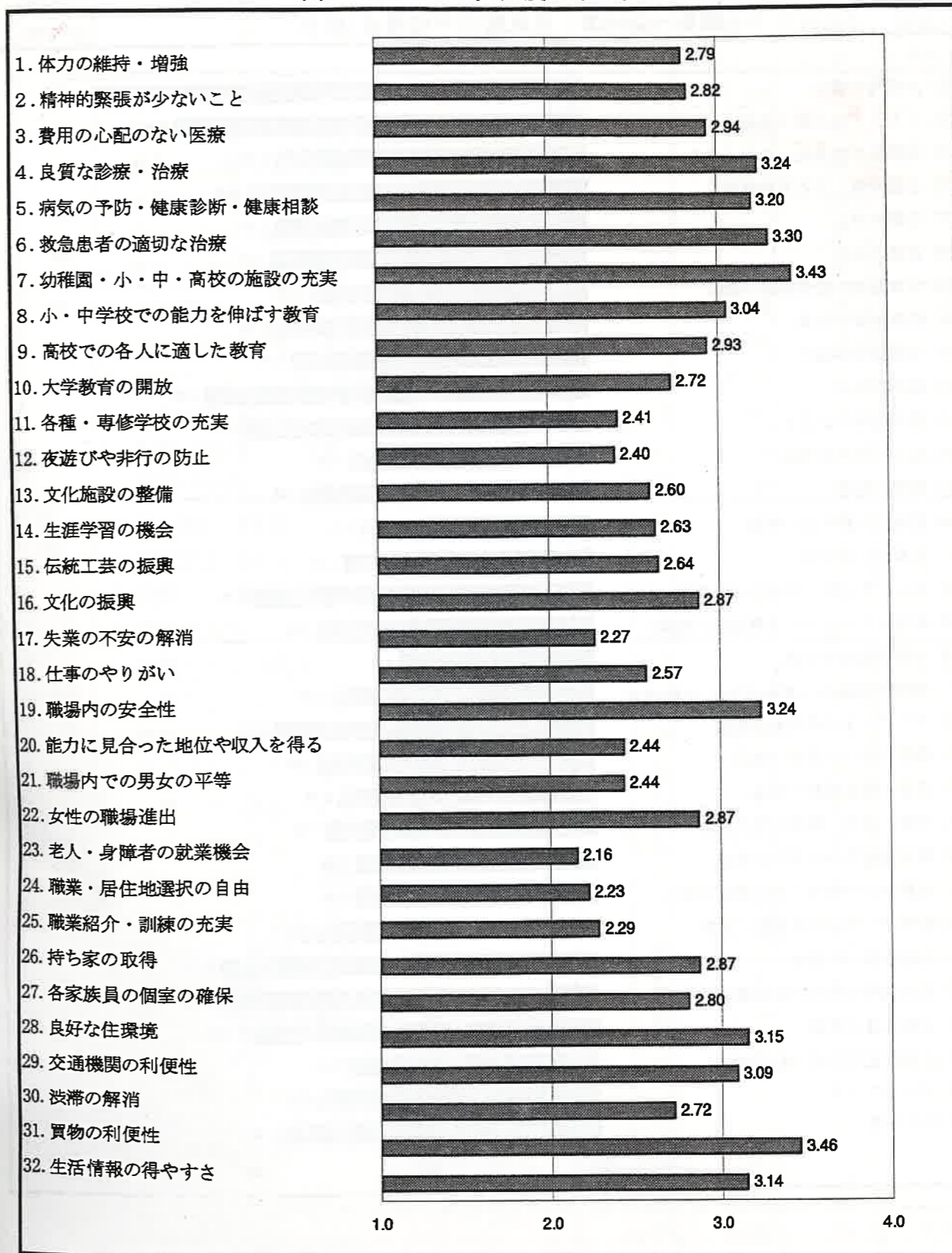


図3-2-2 充足度の平均得点(続き)

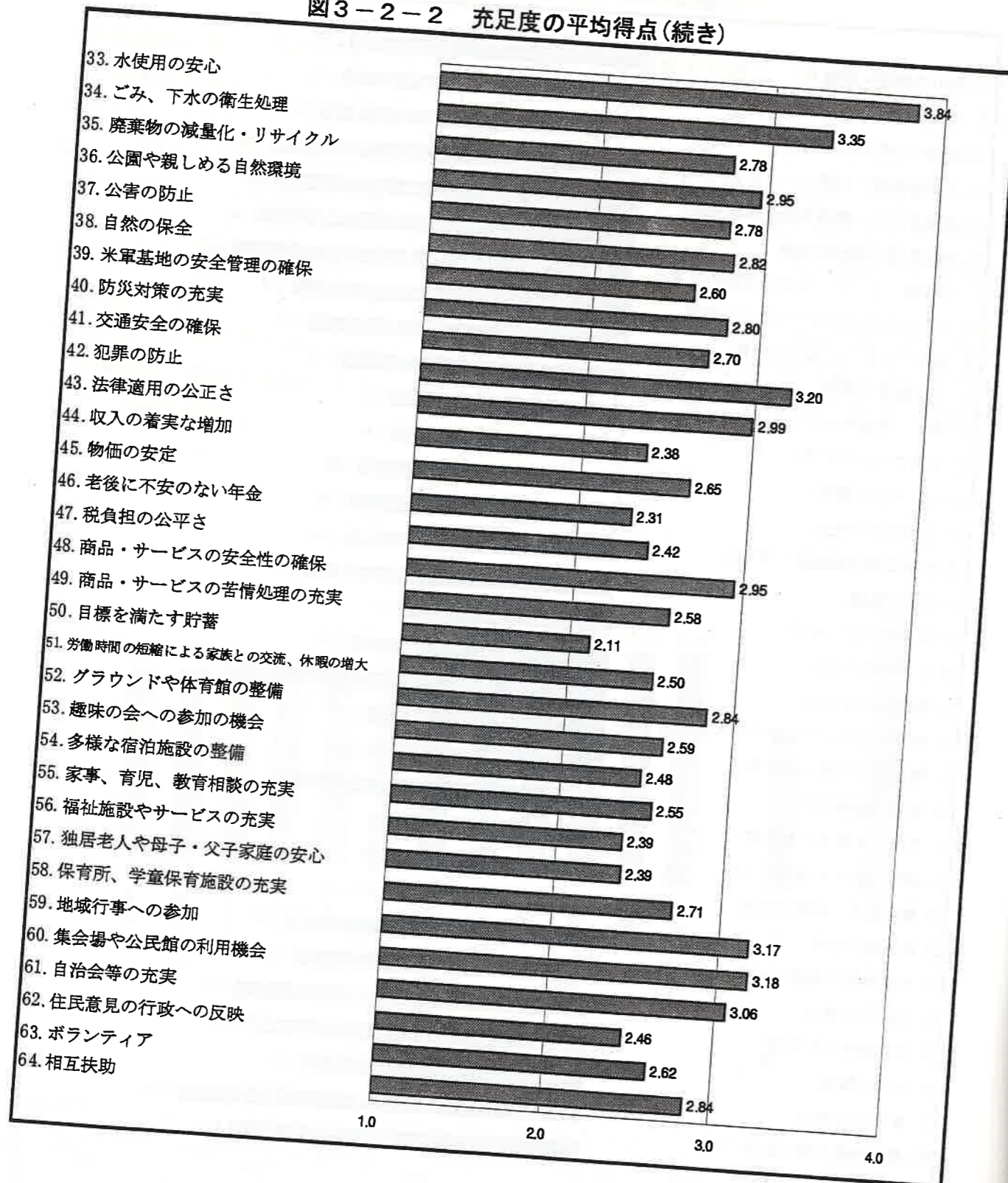


表3-2-1 充足度の平均得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	1. 体力の維持・増強	2.79	1.03	37.0	3.05
	2. 精神的緊張が少ないこと	2.82	1.00	35.4	
	3. 費用の心配のない医療	2.94	1.08	36.8	
	4. 良質な診療・治療	3.24	0.96	29.8	
	5. 病気予防・健康診断・健康相談	3.20	0.98	30.5	
	6. 救急患者の適切な治療	3.30	0.92	27.8	
教育	7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3.43	0.89	26.0	2.82
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	3.04	0.93	30.6	
	9. 高校での各人に適した教育	2.93	0.94	31.9	
	10. 大学教育の開放	2.72	1.02	37.3	
	11. 各種・専修学校の充実	2.41	1.10	45.5	
	12. 夜遊びや非行の防止	2.40	1.09	45.5	
教養・文化	13. 文化施設の整備	2.60	1.12	43.1	2.69
	14. 生涯学習の機会	2.63	1.01	38.5	
	15. 伝統工芸の振興	2.64	0.97	36.5	
	16. 文化の振興	2.87	0.96	33.3	
労働・雇用	17. 失業の不安の解消	2.27	1.17	51.6	2.50
	18. 仕事のやりがい	2.57	1.19	46.4	
	19. 職場内の安全性	3.24	0.96	29.6	
	20. 能力に見合った地位や収入を得る	2.44	1.04	42.5	
	21. 職場内での男女の平等	2.44	1.01	41.3	
	22. 女性の職場進出	2.87	0.94	32.8	
	23. 老人・身障者の就業機会	2.16	0.99	45.7	
	24. 職業・居住地選択の自由	2.23	1.03	46.1	
	25. 職業紹介・訓練の充実	2.29	1.00	43.6	
	住宅	26. 持ち家の取得	2.87	1.37	
27. 各家族員の個室の確保		2.80	1.28	45.7	
28. 良好な住環境		3.15	1.17	37.1	
利便	29. 交通機関の利便性	3.09	1.16	37.5	3.10
	30. 渋滞の解消	2.72	1.16	42.8	
	31. 買物の利便性	3.46	1.07	31.0	
	32. 生活情報の得やすさ	3.14	0.97	30.9	
快適	33. 水使用の安心	3.84	0.96	25.1	3.09
	34. ごみ、下水の衛生処理	3.35	1.08	32.1	
	35. 廃棄物の減量化・リサイクル	2.78	1.03	36.9	
	36. 公園や親しめる自然環境	2.95	1.11	37.6	
	37. 公害の防止	2.78	1.15	41.4	
適	38. 自然の保全	2.82	1.02	36.2	

表3-2-1 充足度の平均得点(続き)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
安全 と 個 保 護	39. 米軍基地の安全管理の確保	2.60	1.14	44.0	2.86
	40. 防災対策の充実	2.80	1.04	37.0	
	41. 交通安全の確保	2.70	1.03	38.1	
	42. 犯罪の防止	3.20	0.95	29.6	
	43. 法律適用の公正さ	2.99	0.90	30.2	
消 費 生 活	44. 収入の着実な増加	2.38	0.99	41.6	2.49
	45. 物価の安定	2.65	0.94	35.5	
	46. 老後に不安のない年金	2.31	1.05	45.3	
	47. 税負担の公平さ	2.42	0.98	40.3	
	48. 商品・サービスの安全性の確保	2.95	0.90	30.4	
	49. 商品・サービスの苦情処理の充実	2.58	0.95	37.0	
余 暇	50. 目標を満たす貯蓄	2.11	1.00	47.5	2.60
	51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大	2.50	1.07	42.8	
	52. グラウンドや体育館の整備	2.84	1.12	39.3	
	53. 趣味の会への参加の機会	2.59	0.98	37.9	
社 会 福 祉	54. 多様な宿泊施設の整備	2.48	1.03	41.5	2.51
	55. 家事、育児、教育相談の充実	2.55	0.95	37.2	
	56. 福祉施設やサービスの充実	2.39	1.02	42.8	
	57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	2.39	1.00	41.7	
地 域 活 動	58. 保育所、学童保育施設の充実	2.71	1.01	37.3	2.89
	59. 地域行事への参加	3.17	0.93	29.3	
	60. 集会場や公民館の利用機会	3.18	1.00	31.4	
	61. 自治会等の充実	3.06	0.91	29.9	
	62. 住民意見の行政への反映	2.46	0.93	38.0	
	63. ボランティア	2.62	0.90	34.4	
64. 相互扶助		2.84	0.97	34.0	
県 計		2.78	1.02	37.5	

(1) 充足度の低い項目と高い項目

充足度の低い項目と高い項目をそれぞれ15項目抜き出し、過去の調査結果と比較したのが表3-2-2と表3-2-3である。

まず、表3-2-2で充足度の低い項目をみると、今回調査で新たに設けた問50「目標を満たす貯蓄」が最も低い充足度となったことにより、前回1位の問23「老人・身障者の就業機会」と前回2位の問24「住みたいところで希望する仕事につける」は今回それぞれ2位、3位となった。

前回調査との比較でみると、問21「職場内での男女の平等」(27位から13位へ)、問46「老後に不安のない年金」(13位から6位へ)、問62「住民意見の行政への反映」

(22位から15位へ)、問17「失業の不安の解消」(8位から4位へ)、問44「収入の着実な増加」(10位から7位へ)などの充足度が低下した反面、問12「夜遊びや非行の防止」(3位から10位へ)、問11「各種学校や専門学校の充実」(6位から11位へ)などは充足度が上昇している。このように、バブル経済崩壊後の長期的な景気低迷を反映して、所得や雇用に関する項目で充足度が低下している。

また、問17「失業の不安の解消」、問46「老後に不安のない年金」、問44「収入の着実な増加」、問62「住民意見の行政への反映」は平成2年調査から充足度の低下が続いている。

なお、前回調査で15位以内にあった問51「労働時間の短縮」や問13「文化施設が近くにあること」、問55「家事、育児、教育相談の充実」、問14「生涯学習の機会」は充足度が高くなり、下位15位グループからは離れた。

表3-2-2 充足度の低い項目

領域	番号	項目	平成2年		平成7年		平成11年	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
消費生活	50	目標を満たす貯蓄(新規)	-	-	-	-	1	2.11
労働・雇用	23	老人・身障者の就業機会	2	2.23	1	2.18	2	2.16
労働・雇用	24	住みたいところで希望する仕事につける	4	2.31	2	2.21	3	2.23
労働・雇用	17	失業の不安の解消	10	2.46	8	2.40	4	2.27
労働・雇用	25	職業紹介・訓練の充実	18	2.57	4	2.31	5	2.29
消費生活	46	老後に不安のない年金	26	2.69	13	2.49	6	2.31
消費生活	44	収入の着実な増加	13	2.48	10	2.44	7	2.38
社会福祉	56	福祉施設やサービスの充実	14	2.53	7	2.38	8	2.39
社会福祉	57	独居老人や母子・父子家庭の安心	19	2.58	9	2.41	9	2.39
教育	12	夜遊びや非行の防止	36	2.78	3	2.27	10	2.40
教育	11	各種学校や専修学校の充実	7	2.40	6	2.35	11	2.41
消費生活	47	税負担の公平さ	5	2.33	11	2.44	12	2.42
労働・雇用	21	職場内での男女の平等	23	2.65	27	2.61	13	2.44
労働・雇用	20	能力に見合った地位や収入を得る(新規)	-	-	-	-	14	2.44
地域活動	62	住民意見の行政への反映	28	2.70	22	2.55	15	2.46

平成7年に下位15項目中、今回調査で評価が上がり、15グループから離れた項目

領域	番号	項目	前回 順位	今回 順位
労働・雇用	51	労働時間の短縮	5	17
教養・文化	13	文化施設が近くにあること	12	22
社会福祉	55	家事、育児、教育相談の充実	14	18
教養・文化	14	生涯学習の機会	15	25

(注) (新規)は、今回調査で新たに追加した項目を示す。

一方、表3-2-3で充足度の高い項目をみると、問33「水使用の安心」、問31「買物の利便性」が前回調査に引き続いてそれぞれ1位、2位となった。

前回調査との比較でみると、問59「地域行事への参加」(18位から11位へ)、問61「自治会等の充実」(22位から15位へ)、問19「職場内の安全性」(12位から6位へ)、問7「幼稚園・小・中・高校の施設の充実」(7位と9位から3位へ)などの充足度が高くなった反面、問32「生活情報の得やすさ」(8位から13位へ)、問29「交通機関の利便性」(10位から14位へ)などは充足度が低下している。

なお、前回13位の問3「費用の心配のない医療」は今回20位へ、前回15位の問43「法律適用の公正さ」は今回17位へそれぞれ順位を下げ、上位15グループからはずれた。

表3-2-3 充足度の高い項目(比較的充足されている項目)

領域	番号	項目	平成2年		平成7年		平成11年	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
快適	33	水使用の安心	1	3.83	1	3.64	1	3.84
利便	31	買物の利便性	2	3.56	2	3.45	2	3.46
教育	7	幼稚園・小・中・高校の施設の充実(統合)	8と11	3.24	7と9	3.07	3	3.43
快適	34	ごみ、下水の衛生処理	17	3.09	3	3.29	4	3.35
医療と保健	6	救急患者の適切な治療	7	3.32	5	3.11	5	3.30
労働・雇用	19	職場内の安全性	15	3.17	12	3.03	6	3.24
医療と保健	4	良質な診療・治療	3	3.55	4	3.18	7	3.24
安全と個人の保護	42	犯罪の防止	16	3.12	11	3.03	8	3.20
医療と保健	5	病気の予防・健康診断・健康相談	6	3.36	6	3.11	9	3.20
地域活動	60	集会場や公民館の利用機会	12	3.21	14	2.91	10	3.18
地域活動	59	地域行事への参加	9	3.24	18	2.85	11	3.17
住宅	28	良好な住環境	13	3.19	16	2.88	12	3.15
利便	32	生活情報の得やすさ	18	3.08	8	3.06	13	3.14
利便	29	交通機関の利便性	10	3.24	10	3.05	14	3.09
地域活動	61	自治会等の充実	19	3.08	22	2.81	15	3.06

(注) (統合)とは、2つの項目を1つの項目にまとめたものであるが、過去の数値は2つの項目の平均値を表記した。

項目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年
7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実 (①と②を統合)	3.24 (平均)	3.24 (平均)	3.07 (平均)	3.43 —
①幼稚園施設・内容の充実	3.24	3.25	3.06	—
②小・中・高校の施設の整備	3.24	3.23	3.08	—

平成7年上位15項目中、順位を下げ、15グループから離れた項目

領域	番号	項目	前回順位	今回順位
医療と保健	3	費用の心配のない医療	13	20
安全と個人の保護	43	法律適用の公正さ	15	17

(注) (統合)については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

(2) 領域別の比較

領域ごとの充足度の平均点と上下15位に入った項目の数について、前回と今回の結果を比較したのが表3-2-4である。

領域ごとの平均得点をみると、「利便」、「快適」、「医療と保健」などが上位に位置しており、社会資本整備や各種施策の充実と相まって、県民の意識のうえでもかなり充実されてきているものと考えられる。一方、「消費生活」、「労働雇用」、「社会福祉」など県民生活と関わりの深い分野の充足度は前回調査と同様に低くなっており、これら領域における施策の充実が今後とも求められる。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、上位については、「利便」領域が4項目中3項目、「快適」が6項目中2項目、「医療と保健」が6項目中3項目となっている。一方、下位は、「消費生活」が7項目中4項目、「労働・雇用」が9項目中6項目、「社会福祉」が4項目中2項目となっている。

前回調査と比較してみると、「教養・文化」(12位から8位へ)、「住宅」(7位から4位へ)などが順位を上げて、逆に、「消費生活」(9位から12位へ)、「安全と個人の保護」(4位から6位へ)などが順位を下げた。各領域の得点については、大きな変動はみられないものの、1位と最下位の差をみると、前は0.52ポイントであったが、今回は0.61ポイントに拡大した。

表3-2-4 領域別にみた充足度

順位	領域	前回順位	領域ごとの平均得点		上位15位に入った項目数		下位15位に入った項目数	
			平成7年	平成11年	平成7年	平成11年	平成7年	平成11年
1	利便	2	3.07	3.10	3/4	3/4		
2	快適	1	3.15	3.09	2/4	2/6		
3	医療と保健	3	3.03	3.05	4/5	3/6		
4	住宅	7	2.69	2.94	1/3	1/3		
5	地域活動	5	2.73	2.89	1/6	3/6		1/6
6	安全と個人の保護	4	2.81	2.86	1/5	1/5		
7	教育	6	2.71	2.82	2/7	1/6	2/7	2/6
8	教養・文化	12	2.51	2.69	1/8		2/3	
9	余暇	8	2.59	2.60			1/5	
10	社会福祉	10	2.51	2.51	1/8		4/8	2/4
11	労働・雇用	11	2.51	2.50	1/8	1/9	4/8	6/9
12	消費生活	9	2.55	2.49			3/6	4/7

(注) 分母の数字は、各領域の項目数
項目数の表記は、(該当する項目数)/(領域の項目数)

(3) 地域別の充足度

次に、領域別の充足度を低い順に地域別にみたのが表3-2-5である。

特徴的なことは、八重山地域が高い充足度を示している、「教育」の分野は低いものの、「教養・文化」、「労働・雇用」、「快適」、「安全と個人の保護」、「消費生活」、「余暇」の分野で、どの地域よりも高い充足度となっている。一方、充足度が最も低い那覇市は、「教育」は高いが、「住宅」と「地域活動」は最も低くなっている。

その他の地域をみると、北部は、「教養・文化」で低い「医療と保健」や「社会福祉」、「地域活動」で高くなっており、中部は、「快適」と「安全と個人の保護」で低くなっている。南部は、「労働・雇用」と「利便」、「消費生活」、「余暇」、「社会福祉」で低い、「住宅」で高く、宮古は、「医療と保健」で低く、「利便」で高くなっている。

表3-2-5 地域別・領域別充足度得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	6	3.16	4	3.04	3	3.00	5	3.10	1	2.97	2	2.98	3.05
教育	4	2.81	2	2.80	6	2.90	3	2.81	5	2.82	1	2.77	2.82
教養・文化	1	2.55	4	2.70	5	2.79	2	2.57	3	2.60	6	2.88	2.69
労働・雇用	4	2.57	2	2.46	3	2.53	1	2.44	5	2.65	6	2.66	2.50
住宅	4	3.06	2	2.93	1	2.67	6	3.15	3	3.03	5	3.15	2.94
利便	4	3.17	2	3.07	3	3.10	1	2.98	6	3.48	5	3.38	3.10
快適	4	3.18	1	3.04	2	3.07	3	3.09	5	3.20	6	3.30	3.09
安全と個人の保護	4	3.03	1	2.76	2	2.81	3	2.90	5	3.14	6	3.24	2.86
消費生活	3	2.48	2	2.47	4	2.51	1	2.43	5	2.57	6	2.65	2.49
余暇	4	2.65	3	2.60	2	2.58	1	2.49	5	2.73	6	2.95	2.60
社会福祉	6	2.66	3	2.50	2	2.49	1	2.42	5	2.62	4	2.57	2.51
地域活動	6	3.11	3	2.91	1	2.67	4	2.92	2	2.80	5	3.00	2.89
計	4	2.87	2	2.77	1	2.76	3	2.77	5	2.88	6	2.96	2.79

(注) 順位は、各領域の地域間の順位である。(低い順)

各領域の具体的な項目の下位からの順位を全県及び地域ごとに示したのが表3-2-6である。平均得点が最も低いのは、中部と南部が問50「目標を満たす貯蓄」、那覇市が問23「老人・身障者の就業機会」、北部と宮古、八重山が問11「各種・専修学校の充実」となっている。

2位については、北部と那覇市、宮古、八重山が問50「目標を満たす貯蓄」、中部が問23「老人・身障者の就業機会」、南部が問24「職業・居住地選択の自由」となっている。このように、充足度の低い項目の順位は、地域によって異なる状況にあり、県計11位の問11「各種・専修学校の充実」が北部と宮古、八重山で最も低くなっているのが特徴的である。

また、地域別の項目順位を県計の順位と比較すると、北部は、問11「各種・専修学校の充実」や問54「多様な宿泊施設の整備」、問49「商品・サービスの苦情処理の充実」、

問13「文化施設の整備」が県計より低い充足度になっている。一方、問46「老後に不安のない年金」や問12「夜遊びや非行の防止」、問57「独居老人や母子・父子家庭の安心」、問41「交通安全の確保」、問30「渋滞の解消」は県計より高い充足度になっている。

中部は、県全体の充足度の順位と類似した序列を示しているが、全県順列の23位にある問39「米軍基地の安全管理の確保」については8位と低い充足度になっている。

充足度得点が最も低い那覇市は、問25「職業紹介・訓練の充実」、問11「各種・専修学校の充実」などは県計より高い充足度になっているが、問12「夜遊びや非行の防止」、問30「渋滞の解消」などでは、県計より低い充足度となっている。

南部は、問54「多様な宿泊施設の整備」や問13「文化施設の整備」の充足度が低く、問39「米軍基地の安全管理の確保」が高くなっていることを除くとほぼ県全体の充足度と同様の傾向を示している。

宮古、八重山はともに県計11位の問11「各種・専修学校の充実」の充足度が一番低い。宮古は、県計と比較して問24「職業・居住地選択の自由」や問46「老後に不安のない年金」、問39「米軍基地の安全管理の確保」、問30「渋滞の解消」などは充足度が高いが、問49「商品・サービスの苦情処理の充実」、問53「趣味の会への参加の機会」、問15「伝統工芸の振興」は充足度が低くなっている。八重山は、問49「商品・サービスの苦情処理の充実」、問39「米軍基地の安全管理の確保」、問30「渋滞の解消」などは充足度が高いが、問10「大学教育の開放」や問2「精神的緊張が少ないこと」は低い充足度を示している。

表3-2-6 地域別・項目別充足度得点順位表（低い順位）

項目	県計 順位	地域別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
50. 目標を満す貯蓄	1	2	1	2	1	2	2
23. 老人・身障者の就業機会	2	4	2	1	4	3	6
24. 職業・居住地選択の自由	3	9	3	6	2	18	5
17. 失業の不安の解消	4	10	4	3	6	14	12
25. 職業紹介・訓練の充実	5	3	6	16	3	4	3
46. 老後に不安のない年金	6	18	5	5	8	22	8
44. 収入の着実な増加	7	8	7	8	13	19	13
56. 福祉施設やサービスの充実	8	17	12	10	11	9	4
57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	9	23	11	7	9	20	7
12. 夜遊びや非行の防止	10	25	9	4	15	5	10
11. 各種・専修学校の充実	11	1	16	40	7	1	1
47. 税負担の公平さ	12	13	13	13	10	23	19
21. 職場内での男女の平等	13	11	14	14	16	10	9
20. 能力に見合った地位や収入を得る	14	14	10	12	20	12	11
62. 住民意見の行政への反映	15	15	15	11	23	6	26
54. 多様な宿泊施設の整備	16	6	18	24	5	16	23
51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大	17	16	17	15	18	30	21
55. 家事、育児、教育相談の充実	18	20	21	21	14	15	20
18. 仕事のやりがい	19	24	19	18	19	31	24
49. 商品・サービスの苦情処理の充実	20	7	23	31	17	7	35
53. 趣味の会への参加の機会	21	26	20	23	22	8	31
13. 文化施設の整備	22	5	31	37	12	13	33
39. 米軍基地の安全管理の確保	23	28	8	22	34	54	59
63. ボランティア	24	27	24	20	26	17	18
14. 生涯学習の機会	25	19	27	32	21	24	15
15. 伝統工芸の振興	26	12	28	38	24	11	29
45. 物価の安定	27	22	26	30	25	29	17
41. 交通安全の確保	28	38	29	28	29	35	25
58. 保育所、学童保育施設の充実	29	35	32	29	31	37	22
10. 大学教育の開放	30	29	30	41	28	26	14
30. 渋滞の解消	31	50	25	9	27	63	62
35. 廃棄物の減量化・リサイクル	32	21	36	42	35	21	30
37. 公害の防止	33	46	22	43	40	51	42
1. 体力の維持・増強	34	33	35	33	36	28	27
40. 防災対策の充実	35	34	34	34	33	50	47
27. 各家族員の個室の確保	36	32	37	19	44	36	34
38. 自然の保全	37	48	33	27	41	49	58
2. 精神的緊張が少ないこと	38	37	39	36	39	33	16
52. グラウンドや体育館の整備	39	39	43	25	30	53	60
64. 相互扶助	40	51	41	26	42	25	28
26. 持ち家の取得	41	42	40	17	53	32	51
22. 女性の職場進出	42	40	38	49	32	39	39
16. 文化の振興	43	31	42	46	38	27	43
9. 高校での各人に適した教育	44	36	47	50	43	46	37
3. 費用の心配のない医療	45	45	45	44	49	40	32

表3-2-6 地域別・項目別充足度得点順位表（低い順位）（続き）

項目	県計 順位	地域別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
48. 商品・サービスの安全性の確保	46	30	48	47	48	34	36
36. 公園や親しめる自然環境	47	43	44	52	37	55	50
43. 法律適用の公正さ	48	49	46	51	47	43	55
8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	49	44	49	54	50	56	41
61. 自治会等の充実	50	53	52	35	51	41	48
29. 交通機関の利便性	51	47	50	57	45	45	40
32. 生活情報の得やすさ	52	41	54	59	46	59	45
28. 良好な住環境	53	54	51	45	61	57	49
59. 地域行事への参加	54	62	56	48	52	44	56
60. 集会場や公民館の利用機会	55	63	59	39	55	47	44
5. 病気の予防・健康診断・健康相談	56	59	55	55	54	52	54
42. 犯罪の防止	57	60	53	53	58	58	61
4. 良質な診療・治療	58	56	57	58	60	42	38
19. 職場内の安全性	59	52	58	56	56	61	57
6. 救急患者の適切な治療	60	57	60	60	59	38	46
34. ごみ、下水の衛生処理	61	55	61	61	57	48	53
7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	62	58	63	62	63	60	52
31. 買物の利便性	63	61	62	63	62	62	63
33. 水使用の安心	64	64	64	64	64	64	64

(4) 充足度の時系列比較

充足度の水準がこれまで行われた昭和59年、平成2年、平成7年調査と比べてどのように変化したかを時系列に示したのが表3-2-7である。

今回調査においては、重要度調査と同様に新たに6項目が追加され、また、3項目については前回調査の2つの項目を1つに統合したために厳密な比較ができないことに注意する必要がある。

全体を通覧すると、充足度の変動は、平成2年から平成7年調査にかけては低下した項目が多いのに対して、平成7年から平成11年調査にかけては増加した項目が多くなっている。平成7年から11年にかけて充足度が増加した項目は、問7「幼稚園・小・中・高校の施設の充実」(+0.36)、問26「持ち家の取得」(+0.26)、問28「良好な住環境」(+0.27)、問59「地域行事への参加」(+0.32)、問60「集会場や公民館の利用機会」(+0.27)、問61「自治会等の充実」(+0.25)などである。

一方、充足度が減少した項目は、問17「失業の不安の解消」(-0.13)、問21「職場内での男女の平等」(-0.17)、問39「米軍基地の安全管理の確保」(-0.15)、問46「老後に不安のない年金」(-0.18)について、充足度の減少が大きくなっている。この中で、問39「米軍基地の安全管理の確保」を除くと、前回調査に続き充足度が減少している。

表3-2-7 充足度の時系列比較

領域	項 目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年	2年-59年	7年-2年	11年-7年
医療と保健	1. 体力の維持・増強	-	-	2.79	2.79	-	-	0.00
	2. 精神的緊張が少ないこと(新規)	-	-	-	2.82	-	-	-
	3. 費用の心配のない医療	3.04	3.18	2.94	2.94	0.14	-0.24	0.00
	4. 良質な診療・治療	3.39	3.55	3.18	3.24	0.16	-0.37	0.06
	5. 病気の予防・健康診断・健康相談 ※	3.11	3.36	3.11	3.20	0.25	-0.25	0.09
	6. 救急患者の適切な治療	3.19	3.32	3.11	3.30	0.13	-0.21	0.19
教育	7. 幼稚園・小・中・高校の施設の充実(統合)	3.24	3.24	3.07	3.43	0.00	-0.17	0.36
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	-	-	2.84	3.04	-	-	0.20
	9. 高校での各人に適した教育	-	-	2.79	2.93	-	-	0.14
	10. 大学教育の開放	-	2.81	2.59	2.72	-	-0.22	0.13
	11. 各種・専修学校の充実	2.43	2.40	2.35	2.41	-0.03	-0.05	0.06
	12. 夜遊びや非行の防止	2.79	2.78	2.27	2.40	-0.01	-0.51	0.13
教養文化	13. 文化施設の整備	2.64	2.66	2.47	2.60	0.02	-0.19	0.13
	14. 生涯学習の機会	-	2.70	2.51	2.63	-	-0.19	0.12
	15. 伝統工芸の振興	2.87	2.92	2.55	2.64	0.05	-0.37	0.09
	16. 文化の振興(新規)	-	-	-	2.87	-	-	-
労働・雇用	17. 失業の不安の解消	2.27	2.46	2.40	2.27	0.19	-0.06	-0.13
	18. 仕事のやりがい	2.59	2.61	2.52	2.57	0.02	-0.09	0.05
	19. 職場内の安全性	3.18	3.17	3.03	3.24	-0.01	-0.14	0.21
	20. 能力に見合った地位や収入を得る(新規)	-	-	-	2.44	-	-	-
	21. 職場内での男女の平等 ※	2.66	2.65	2.61	2.44	-0.01	-0.04	-0.17
	22. 女性の職場進出	-	-	2.85	2.87	-	-	0.02
	23. 老人・身障者の就業機会	2.23	2.23	2.18	2.16	0.00	-0.05	-0.02
	24. 職業・居住地選択の自由	2.31	2.31	2.21	2.23	0.00	-0.10	0.02
	25. 職業紹介・訓練の充実	-	2.57	2.31	2.29	-	-0.26	-0.02
	住宅	26. 持ち家の取得	2.90	2.82	2.61	2.87	-0.08	-0.21
27. 各家族間の個室の確保		2.67	2.63	2.59	2.80	-0.04	-0.04	0.21
28. 良好な住環境		3.10	3.19	2.88	3.15	0.09	-0.31	0.27
利便	29. 交通機関の利便性	3.14	3.24	3.05	3.09	0.10	-0.19	0.04
	30. 渋滞の解消	-	-	2.71	2.72	-	-	0.01
	31. 買物の利便性	3.38	3.56	3.45	3.46	0.18	-0.11	0.01
	32. 生活情報の得やすさ	-	3.08	3.06	3.14	-	-0.02	0.08
快適	33. 水使用の安心	3.88	3.83	3.64	3.84	-0.05	-0.19	0.20
	34. ごみ、下水の衛生処理	3.03	3.09	3.29	3.35	0.06	0.20	0.06
	35. 廃棄物の減量化・リサイクル(新規)	-	-	-	2.78	-	-	-
	36. 公園や親しめる自然環境	2.71	2.75	2.87	2.95	0.04	0.12	0.08
	37. 公害の防止	2.75	2.79	2.81	2.78	0.04	0.02	-0.03
	38. 自然の保全(新規)	-	-	-	2.82	-	-	-

表3-2-7 充足度の時系列比較(続き)

領域	項 目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年	2年-59年	7年-2年	11年-7年
安全と個人の保護	39. 米軍基地の安全管理の確保	2.60	2.55	2.75	2.60	-0.05	0.20	-0.15
	40. 防災対策の充実	2.96	2.98	2.81	2.80	0.02	-0.17	-0.01
	41. 交通安全の確保	2.47	2.51	2.59	2.70	0.04	0.08	0.11
	42. 犯罪の防止	3.10	3.12	3.03	3.20	0.02	-0.09	0.17
	43. 法律適用の公正さ	3.01	3.01	2.88	2.99	0.00	-0.13	0.11
消費生活	44. 収入の着実な増加	2.28	2.48	2.44	2.38	0.20	-0.04	-0.06
	45. 物価の安定	2.17	2.47	2.51	2.65	0.30	0.04	0.14
	46. 老後に不安のない年金	2.60	2.69	2.49	2.31	0.09	-0.20	-0.18
	47. 税負担の公平さ	-	2.33	2.44	2.42	-	0.11	-0.02
	48. 商品・サービスの安全性の確保	-	-	2.85	2.95	-	-	0.10
	49. 商品・サービスの苦情処理の充実	2.36	2.42	2.54	2.58	0.06	0.12	0.04
	50. 目標を満たす貯蓄(新規)	-	-	-	2.11	-	-	-
余暇	51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大(統合)	2.38	2.38	2.56	2.50	0.00	0.18	-0.06
	52. グラウンドや体育館の整備	2.62	2.74	2.75	2.84	0.12	0.01	0.09
	53. 趣味の会への参加の機会	2.50	2.59	2.54	2.59	0.09	-0.05	0.05
	54. 多様な宿泊施設の整備	-	2.67	2.52	2.48	-	-0.15	-0.04
社会福祉	55. 家事、育児、教育相談の充実	2.71	2.70	2.50	2.55	-0.01	-0.20	0.05
	56. 福祉施設やサービスの充実	2.57	2.53	2.38	2.39	-0.04	-0.15	0.01
	57. 独居老人や母子・父子家庭の安心	2.60	2.58	2.41	2.39	-0.02	-0.17	-0.02
	58. 保育所、学童保育施設の充実(統合)	2.91	3.01	2.64	2.71	0.10	-0.37	0.07
地域活動	59. 地域行事への参加	3.29	3.24	2.85	3.17	-0.05	-0.39	0.32
	60. 集会場や公民館の利用機会	3.20	3.21	2.91	3.18	0.01	-0.30	0.27
	61. 自治会等の充実	3.09	3.08	2.81	3.06	-0.01	-0.27	0.25
	62. 住民意見の行政への反映	2.65	2.70	2.55	2.46	0.05	-0.15	-0.09
	63. ボランティア	-	2.76	2.56	2.62	-	-0.20	0.06
	64. 相互扶助	3.44	3.38	2.70	2.84	-0.06	-0.68	0.14

(注) 1. ※印(No5、No21)は、表現の変更があった項目である。

2. (統合)とは、二つの項目を一つの項目にまとめたものであるが、過去の数値の表記は以下のとおりとした。

項 目	昭和59年	平成2年	平成7年	平成11年
7. 幼稚園・小・高校の施設の充実	3.24	3.24	3.07	3.43
(①と②を統合)	(平均)	(平均)	(平均)	-
①幼稚園施設・内容の充実	3.24	3.25	3.06	-
②小・中・高校の施設の整備	3.24	3.23	3.08	-
51. 労働時間の短縮による家族との交流、休暇の増大(①と②を統合)	2.38	2.38	2.56	2.50
(①と②を統合)	-	-	(平均)	-
①労働時間の短縮	2.38	2.38	2.31	-
②家族とのコミュニケーションの確保	-	-	2.81	-
58. 保育所、学童保育施設の充実	2.91	3.01	2.64	2.71
(①と②を統合)	-	-	(平均)	-
①保育所の充実	2.91	3.01	2.67	-
②学童保育所の充実	-	-	2.61	-

次に、領域別の充足度得点の順位がどのように変化したかを、昭和54年調査から今回調査まで一覧表にしたのが表3-2-8である。

過去の調査も含めて、大きな特徴と考えられるのは、「消費生活」領域に対する県民の充足度が、平成7年調査で下位から4位にあがった以外は常に最下位になっていることと、「労働・雇用」領域が下位から2位に定着するようになったことである。3位の「社会福祉」領域については、昭和54年調査から平成2年調査まで下位から7位の位置にあったのが、平成7年及び平成11年の両調査では、3位となった。逆に「余暇」領域は、平成2年まで2位、3位にあったのが、平成7年には5位になり、平成11年には4位となっている。「教養・文化」領域については、調査毎の変動が大きく、昭和54年の4位から平成2年には9位になり、平成7年には最下位、平成11年には5位となった。その他の領域については、若干の変動があるものの、平成7年、平成11年は、類似した位置を占めている。

表3-2-8 領域別充足度得点の比較 (低い順位)

領域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年		平成11年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
消費生活	1	2.31	1	2.41	1	2.48	4	2.55	1	2.49
労働・雇用	3	2.46	3	2.54	2	2.55	2	2.51	2	2.50
社会福祉	7	2.85	7	2.95	7	2.84	3	2.51	3	2.51
余暇	2	2.36	2	2.47	3	2.55	5	2.59	4	2.60
教養・文化	4	2.64	5	2.75	9	2.89	1	2.51	5	2.69
教育	9	2.99	9	3.03	8	2.84	7	2.71	6	2.82
安全と個人の保護	5	2.69	6	2.79	6	2.83	9	2.81	7	2.86
地域活動	12	3.11	10	3.13	10	3.06	8	2.73	8	2.89
住宅	6	2.72	4	2.72	4	2.69	6	2.69	9	2.94
医療と保健	10	3.09	11	3.18	12	3.35	10	3.03	10	3.05
快適	8	2.91	8	2.96	5	2.79	12	3.15	11	3.09
利便	11	3.10	12	3.21	11	3.29	11	3.07	12	3.10
県計		2.77		2.85		2.85		2.74		2.79

(注) 平成2年～昭和54年分については、安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。

3 生活の各側面に対するニーズ (問1、問2 関連)

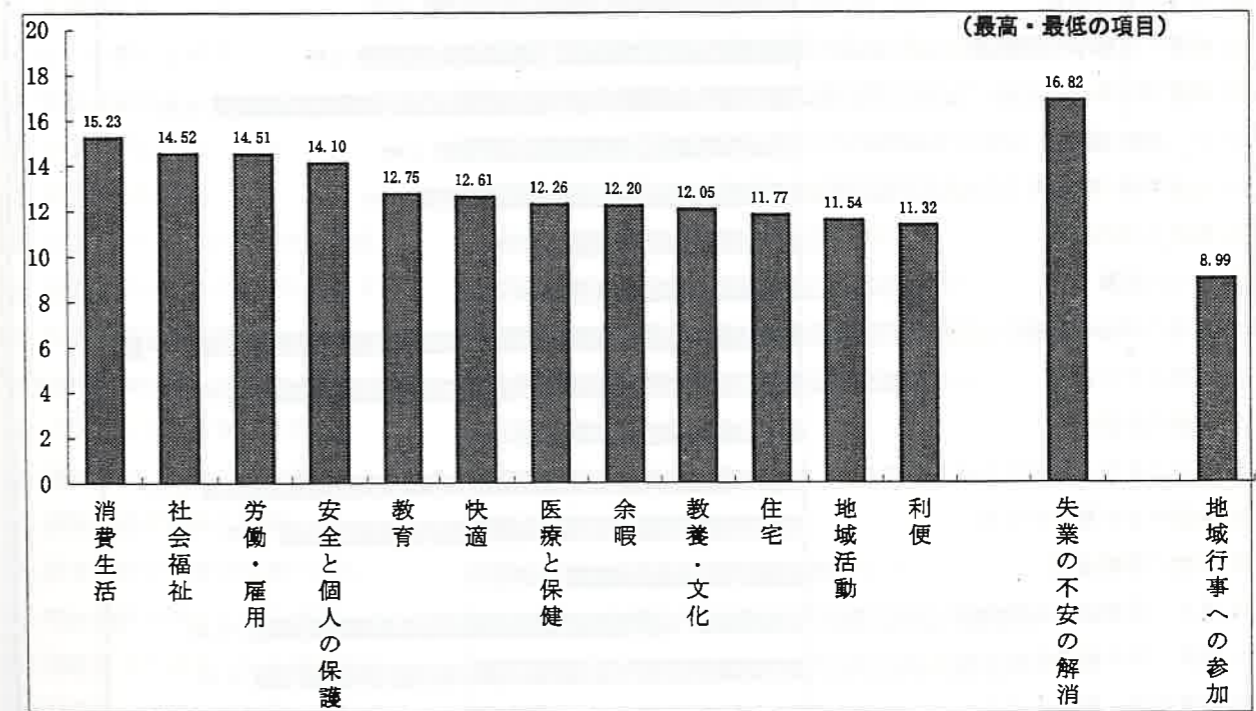
これまで、県民生活に関する個別具体的な項目について、その重要度と充足度を個別にみてきたが、生活に対するニーズは、両者とも相互に関係しているため、以下の式で定義されるニーズ得点を算出し、県民のニーズに関する評価の指標 (ニーズ得点) とした。

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度得点} \times (6 - \text{充足度得点})$$

ここで、(6 - 充足度得点) は未充足度を意味し、ニーズ得点は、重要度、充足度によって変化し、重要度が高く、しかも充足されていない項目ほど高くなるという関係にある。

まず、領域別のニーズ得点を示したのが図3-3-1である。ニーズの高い領域は、「消費生活」、「社会福祉」、「労働・雇用」と続き、一方、「利便」、「地域活動」、「住宅」等に対するニーズは相対的に低くなっている。

図3-3-1 ニーズ得点



具体的な個別項目のニーズ得点をみると図3-3-2、表3-3-1に示すように、ニーズ得点が高いのは、問17「失業の不安の解消」(16.82)で、以下、問46「老後に不安のない年金」(16.78)、問50「目標を満たす貯蓄(新規)」(16.25)、問44「収入の着実な増加」(15.91)、問47「税負担の公平さ」(15.87)と実生活に直接関連する項目で高くなっている。

一方、最も低い項目は問59「地域行事への参加」(8.99)、問60「集会場や公民館の利用機会」(9.52)、問33「水使用の安心」(9.62)、問61「自治会等の充実」(9.87)等となっており、主として地域のコミュニティーにかかわるニーズが低くなっている。

また、ニーズ得点の最も高い問17「失業の不安の解消」(16.82)と最も低い問59「地域行事への参加」(8.99)には7.83ポイントの開きがあり、ニーズの格差は前回調査の6.46ポイントより大きくなっている。